

軍用記

二

			和書門
	二五〇八九		
七	九		
冊	函	號	類
	三		
	架		

庫	文	閣	內
二五〇八九			和書
七			
冊	函	號	類
	一		
	架		

內閣文庫	
番號	和 25089
冊數	7 (2)
函號	154 1



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

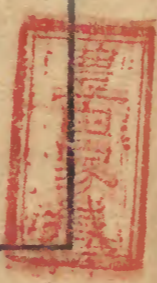




軍用
記
第
二

目
録

曹 鋏 形
曹 鍔 緒
面 頰
鎧
脇 猶
袖
鳩 尾 板



軍
用

軍
用
圖
書

梅檀板

小午

膝鎧

臙當

頬貫

上帶

鎧櫃

同覆

鎧掛御目事

軍用記卷二

伊勢貞丈著
千賀春城補

曹の事

曹ハ既^ゴ砂引^リありてもさく方^リは^レも
極形^ニ妙^ニなりては^レも筋^ハか^レと^レ是^レ曹^ヲを^レ本^ニ式^トす
四方^ハ白^ハ八^方白^ハあり^テ四方^ハ白^ハは^レ後^ニ方^ニ筋^ハあり^テ
は^レ銀^ヲを^レする^ハ八^方白^ハは^レ方^ノ白^ハの^レ目^ヲを^レ又^ニ銀^ヲを^レ
する^ハ方^リ斤^ハ白^ハと^レは^レ六^ハあり^テ後^ニ方^ニ新^ニ半^ニ銀^ヲを^レ
する^ハあり^テ
曹^ノ筋^ハの^レ数^ハ廿^ハ筋^ハあり^テ又^ニ八^筋を^レか^レと^レ



右之又ハ方白
の由ハ六七名
公事付るより
中又甲たれ
まハ二百斗
いたるなり

松とうの下のまをむきふあり 図ありある

面頬の事

めんぼうハ額よりおしごびとかくるありこま
お式あり額面ハ目の下よりかくる之は後ハ
男後ちり面頬よまきくまよだまうけを有
かりよだれうけを有るまハ深草一板を有
まをとりて襦袢の肩向のまきりのちりけ
のじとくまきりあり 男末よまきり

襦袢の事

襦袢の板ハ七板ありノ下は板を衝胸と云
くまきり胸より上ニ板をいたくあけとりふ

くまきり胸ハ弓よりたけ付の方と重なり
れハ毛引を本式とまきりあり

胸のちむ板ハまきの板ある深草よみ色
むあり色こやりのよりハ末よ記をむ末板の
りよけ志やりの板を有るけ志やりの板のこ
も末よ志る尺む末板よ金相を有む末金相
より末よ記を

草摺のより中よりたむハひくくかそ
さるちり板の板ハむ襦袢の板もよみ
板あり 菱縫の板板をむ二つハ板板板をバ
けよりよりそ二つよこくるあり 男末より

草をよき草を
を付るやが
より付るよ

敷の口さかりあり鑑たるもの才をさずして
あるか根楯をいしく馬守の方をふさぐに
依り細子付たる草むらひの前後た右合せ
にさかりの根楯を付たる草むらひを合せ
口さかりありさおの板をいしくぬひの板
よりふ中よ菱縫二よりありていぬひ
の上の才よの系よていぬひ縫を
て付るの板よとぞ付るあり菱縫の板よ
三取金物をあさそ金物と云あり
射向の草むらひのやぶるぎの系の所よ系を
用ひたして深草一枚を付るあ方の端

よ織物又ハ別の草よて魚りを付るありけ
深草の所をちカウけといふあり系よして
ちカウの金をさうして陸るありあるちカウ
ぎの系のかよりよ深草を用るあり根
楯もこの草あり草むらひの一枚よ金
物をあさちカウの草をと付る
細の後つぎうつき板ハ下をまぬはま
作り上をさうの取付る深草又おり
物をいしく色をぬひらむけつきうつき
板よ陸子の板を付るむもを付納付の
志ぶを付るありつきかつぎ一名ハマカ



ハ村向の招楯のやゝ惣神を深草にて包
 むゆ法をさしりゆの如し上の方の中の通
 子穴を可又ハニツ又ハ三ツあけ産金お志
 しめをありけ居一啄木の紐結を過し
 て倍ふあり腰の通りぬきふも結を有る
 草のくけ法の中ハ草むらりを有る村向の
 草むらりの如しゆりきの系を利すして深
 草一枚を有てゆりきの系の繋りよきこと
 村向の草むらりのことし深草のぬき方ぬり
 有るちりけ深草の爪をぬきむらりの草と
 りふちりけ藤より爪をぬきゆきとて手し系

あれが草むらりのまかり障りあるやゝ草を有
 りたり草むらりの一の柄も金おの取あり
 草むらりの草よとて有る

禮あるまハ先招楯をありて深草をきき
 かり禮の引合せハ招楯の上よきあるこ
 んまき居の成禮を給りて着せしむ時ハも以
 楯をのよらむの上よあるん是成禮あるぬ
 の覚悟ハも禮をまき居あり時先まの楯を
 有てありすづきおの角あり
 編楯ありやうつかの結のぬきをよまへの
 つがのありうちへ通してぬき給のぬき

をツよきろつろつろのつがへ内よりかへ通し
通てきて裾指をとりて裾をせしめて
うしろのつがへより出たる二筋を一ツよれて
うしろを引したる肩の上よりあへりて
そのつがへの結のよき結むと筋通してその
筋の結と筋をせてかくとあよひてこの
おのおとく結と留へておこしの結をば
お後を引ししてたの裾までかくとあよ結と
このおのどく結と留へて
裾指よきろつろの結よきもあり下のおの裾の
上帯よきおのつろつろとあよるやへ腰の結を畧

さるもあり結の結糸はよきもあり
裾指をあてて後子襟をさるなり
袖の事大袖あり小袖あり大袖を本式
とさるありうむりの板糸のうむりの方より
も少くさるありうむりの板も深草まで
包むりむき板も同じくさるなりけしやりの
板あり袖の板敷い七枚ありむしぬひの板
をとおる草摺子同じうむりの板のあき方の
うむり板をあて結を付るは袖付めくは
は結付る結あり又その中よも一ツろんを
おろ結を付るはよき結付る

結ありし是を志づるの結と云す三の板の表
後の襟は夜合を相をおくそ環は結一
さざりける是を志するの結といふ志を
総角の横子のつちよける結ありし是は
袖のたへ出さる結よとめをさるありあけ
ちきりのつちよ二重うけうもさる結と
結の先をおうけさるをくちり
襟よ合を相おりのつちよ板総角の
板をくちりの板たの袖ありむりり板袖も
さざりも差縫の板け志やりの板よ夜合
おありし白根若合或は焼付志結よ

て草木の花葉ふら草を蝶獅子竜の丸ホ
かり相さうさまあり合おハ二取ま
三取よありしおべむ板ハむ合おをハ
さる合おといふ
さるむも引合せの結編措の結さおあり結を
引懸す不ハ何れも志さめを入又夜合物を
おあり
む板板くちりの板編板綴措木のさづき
のさるあ袖のむりりの板のさづきハさるを
むりりむりりをして夜合をさる二
草よ色む雨のり甲のふきむりりまむさ

一 鏡のつるむし一 星むす板障子の板押付の
板根揃け志やうの板ハ皆さくしは紋出〜た
る漆草よて包とあるむハおろり相又ハ別乃
草よてさく漆うまのふお下りよるなりを付織
めどいハ組をふせ縁の上よ小揃のむやうお
ありうさうりの望金物ハ漆草の上よおあり
又ちカウけ矢さりの皮もなりを付る処ふ
せ組ありむやうハおすと志んどうのれもさめ
草よてつむなりハ付を障子の板も漆草
みて包む見ハ上のおよへりを付る
け志やうの板のりむす板の下た〜 付の板

の〜 袖のむりめ板の个ハおありけ志やう
の板と云ハ廣さ五六分の板を紋ある漆草
よて包むるの金物と云おをおる板の下の
きよよ白子赤き二さこの張をふそく玉編
の板よ二筋あり〜 付る見をあり引といふ
又〜 さん〜 もい〜 け志やうの板ハ横と
〜 一文ありおあり
楯尾の板のり又小揃もいふ薄紙よて他
る上廣く下ハ狭く長き七寸半漆草よて
包く金廣揃をかくる裏よ張を付る射向の
高徳の上をおろ〜 むすひ付るあり〜 高徳を

小女らしき草をて履りをさしつゝある
 け小女袋の内より衣服の袖を納るゑ
 小女は下小袖の上より草をさすあり扱小女の
 上より襪を岳をさして襪を岳のたれ納り上
 へまくりあげて袖くりを志めて小女をあ
 へし右の襪を袖くりにさしめらびまてく
 へして小女はむくはのうちまこりりて
 へあつてつまをさす 補 襪の小袖をさすはがこは肩より
襪の下よりゆふぐ 故の小女の襪はたのこをさすはがこは肩より
の陰の袴は此あり 尚世の具は小女をさすはがこは肩より
あまよよはつてをさすはがこは肩より
さやくさすはがこは肩より
 膝襪の草 膝揃とも さすはがこは肩より
 或は細板金或

いしめ草より福りおを舟或は小札毛引も
さすはがこは肩より
 襪當は太立襪を本とさるかり太立襪を
 惣袴を以て襪の骨肉の形は合て作る
 かり支襪よりたりの合おきてつくまつたが
 めつさる襪は志すもあへ上下は結を さすはがこは肩より
 法はぬきののり又は法はぬきも毛背の
 かり襪の毛皮を以て作る又年々の毛皮を
 小羽の襪の毛皮あり初うは皮をさすはがこは
 襪の毛皮を代りたびはつてさすはがこは
 あり是の甲のあつて下は細き



袴のまぶしむきをこつこつとちぢるけふ
 は表と裏の両方ありかひを入ざるもう一
 筋よつとぬまきの毛皮の下に五經一筋を
 ニツよふ小さい紙を黒くある後書うけく書
 て今といつてかやうのぬまきの好まざるべ
 法式よハあるが昔ハたよりたきてぬま樹もた
 ぬまあり結のむきむやう結をおへり是むびの
 ちよして方ちをおちぐ支方の結を是の裏
 つどして又上へりあけて是カ甲の上よて
 むまびしてむぬりおへりむびむべ一尺二寸

 中びのけの結あるがむびの白銀つてきる
 用抄曰平人の結むびはむびの虎の皮はよてする
 之のたのむ書面

云はぬぬきのあき一尺二寸表の廣さ
 皮ハ虎ののるあき一尺二寸表の廣さ
 毛あき一尺二寸表の廣さ
 糸あき一尺二寸表の廣さ

 二かあり但禮の綱のちきゆきよよりて長
 九寸一うくもよる一きむよまうらうべ一白
 布をよくりもむらうらうよして一幅をよまよ
 くけて用也べ一綱よ二重とりて斤よまよ
 むまびてよまよと結しよまよせこつ抄のこま
 組よれ一かひむべ一結めハあまあるべ
 又云綱よ二重まよしてとむびあがりた
 志むまよハよく志まよのちり

 其俵揚すよ出陳す
 七四上はむこらう

のり九尺五寸あり人子より一丈二尺をさるるあり一布ハ十
九と云布を九寸ありとくけて一丈二尺を草して其子
てとあるあり布の折あり口傳又子法私書曰上帯ハ
寸法五寸一人のこし一のふりふりよりして解るあり
補正ハより心をバ布楯は納めたり義經記子古佐房
義經の付より上る糸は云より心は巻入たる布楯
をこもしてつとをいふ能くつとをわし云れを
付たり云云源平盛衰記卷三三新院者島一聖御の糸
子日富士川のたをえまは物のを控ふる中ハ忠信と
裾をたるかむびつ一合あり平家おるより子年代のきせ
は布楯をわつむつはくせつる物あり
異是楯といふを代つくりが物あり

楯別子武法あり一布楯は細るあり寸天
ハ楯の大小は志くがひて大も小も作る一楯の
角ハきちやうめんをわづ一糸も黒も漆もて
ぬりおの紐付るも付ざるも好まはまうた
一是の上下はさう幅を合る結はんと徳に

扇流云ハ
飛のちた人の
ゆいといあき
さういふはあ
の紐を付る
二返割と云
のうあり布
おまへせま

筋の方ハおの字を合泥して木漆して
ル者一又合おまして打一何まして
よ
楯の布楯の慶の予法黄布あり一杖家の紐を
付るあり一布物ハふ平慶ハ布楯の足子をか
るあり一是のたけわく口をを不ころを
はもして糸をさうをさう一布を以てつらひてぬ
る一ふりおのたより方糸ハお一通をづ一ふせ
楯はさうるあり一圖糸はさう
楯をさるは月よりけるハ布楯のふをあふ
むけ細るハ甲楯をうけてあ人より昇る

角よあひ舟さる。新後三年の法よ又へる
 図より多しあるを
 色世ハ禮を以て考て左刀をすかすあおと右編
 指をさすよりよありたり右の折刀銀ざし
 ささく草よりし腰曲しし物を作り法を
 舟く上帯のよ引旦し法を之を腰曲し
 折刀相き七寸斗一層さこ寸斗一層びつ
 形よりして中よ寸久多子細を草よしてを
 二つよしてをさすあし折刀銀ざしを通して
 ちく之は舟さるの作り指あり右腰曲し
 之相たしくは舟さるの作りあり右ハ左刀を

をさし加こし一箇ハ割さるるありさやまきの刀ハ
 上帯よりさしたるあり室町殿の時代の書よ
 あり一箇と云ああり是ハ引袋の作り之類は
 ごとく作り法を舟に旅行しあごよ用るあり
 禮下の装束ハはん太口をさしてをさししハ禮
 重岳の下を袴のさして足を入るに控えて
 きて禮重岳を意てお袴の腰をとりて
 腰をむさぶふあり右ハ左の重岳も袴の下
 下太口をさすたり又上ハ禮重岳も下ハ
 袴もさす太口斗さくもさしなり左年
 記卷六関東の大勢我身ハ長崎其の次



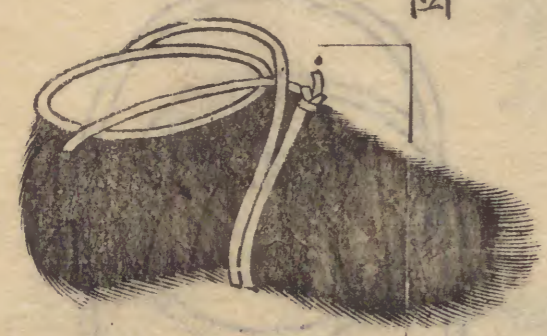


一ノハシ
 二ノハシ
 三ノハシ
 四ノハシ
 五ノハシ
 六ノハシ
 七ノハシ
 八ノハシ
 九ノハシ
 十ノハシ
 十一ノハシ
 十二ノハシ
 十三ノハシ
 十四ノハシ
 十五ノハシ
 十六ノハシ
 十七ノハシ
 十八ノハシ
 十九ノハシ
 二十ノハシ
 二十一ノハシ
 二十二ノハシ
 二十三ノハシ
 二十四ノハシ
 二十五ノハシ
 二十六ノハシ
 二十七ノハシ
 二十八ノハシ
 二十九ノハシ
 三十ノハシ
 三十一ノハシ
 三十二ノハシ
 三十三ノハシ
 三十四ノハシ
 三十五ノハシ
 三十六ノハシ
 三十七ノハシ
 三十八ノハシ
 三十九ノハシ
 四十ノハシ
 四十一ノハシ
 四十二ノハシ
 四十三ノハシ
 四十四ノハシ
 四十五ノハシ
 四十六ノハシ
 四十七ノハシ
 四十八ノハシ
 四十九ノハシ
 五十ノハシ
 五十一ノハシ
 五十二ノハシ
 五十三ノハシ
 五十四ノハシ
 五十五ノハシ
 五十六ノハシ
 五十七ノハシ
 五十八ノハシ
 五十九ノハシ
 六十ノハシ
 六十一ノハシ
 六十二ノハシ
 六十三ノハシ
 六十四ノハシ
 六十五ノハシ
 六十六ノハシ
 六十七ノハシ
 六十八ノハシ
 六十九ノハシ
 七十ノハシ
 七十一ノハシ
 七十二ノハシ
 七十三ノハシ
 七十四ノハシ
 七十五ノハシ
 七十六ノハシ
 七十七ノハシ
 七十八ノハシ
 七十九ノハシ
 八十ノハシ
 八十一ノハシ
 八十二ノハシ
 八十三ノハシ
 八十四ノハシ
 八十五ノハシ
 八十六ノハシ
 八十七ノハシ
 八十八ノハシ
 八十九ノハシ
 九十ノハシ
 九十一ノハシ
 九十二ノハシ
 九十三ノハシ
 九十四ノハシ
 九十五ノハシ
 九十六ノハシ
 九十七ノハシ
 九十八ノハシ
 九十九ノハシ
 百ノハシ

一ノハシ
 二ノハシ
 三ノハシ
 四ノハシ
 五ノハシ
 六ノハシ
 七ノハシ
 八ノハシ
 九ノハシ
 十ノハシ
 十一ノハシ
 十二ノハシ
 十三ノハシ
 十四ノハシ
 十五ノハシ
 十六ノハシ
 十七ノハシ
 十八ノハシ
 十九ノハシ
 二十ノハシ
 二十一ノハシ
 二十二ノハシ
 二十三ノハシ
 二十四ノハシ
 二十五ノハシ
 二十六ノハシ
 二十七ノハシ
 二十八ノハシ
 二十九ノハシ
 三十ノハシ
 三十一ノハシ
 三十二ノハシ
 三十三ノハシ
 三十四ノハシ
 三十五ノハシ
 三十六ノハシ
 三十七ノハシ
 三十八ノハシ
 三十九ノハシ
 四十ノハシ
 四十一ノハシ
 四十二ノハシ
 四十三ノハシ
 四十四ノハシ
 四十五ノハシ
 四十六ノハシ
 四十七ノハシ
 四十八ノハシ
 四十九ノハシ
 五十ノハシ
 五十一ノハシ
 五十二ノハシ
 五十三ノハシ
 五十四ノハシ
 五十五ノハシ
 五十六ノハシ
 五十七ノハシ
 五十八ノハシ
 五十九ノハシ
 六十ノハシ
 六十一ノハシ
 六十二ノハシ
 六十三ノハシ
 六十四ノハシ
 六十五ノハシ
 六十六ノハシ
 六十七ノハシ
 六十八ノハシ
 六十九ノハシ
 七十ノハシ
 七十一ノハシ
 七十二ノハシ
 七十三ノハシ
 七十四ノハシ
 七十五ノハシ
 七十六ノハシ
 七十七ノハシ
 七十八ノハシ
 七十九ノハシ
 八十ノハシ
 八十一ノハシ
 八十二ノハシ
 八十三ノハシ
 八十四ノハシ
 八十五ノハシ
 八十六ノハシ
 八十七ノハシ
 八十八ノハシ
 八十九ノハシ
 九十ノハシ
 九十一ノハシ
 九十二ノハシ
 九十三ノハシ
 九十四ノハシ
 九十五ノハシ
 九十六ノハシ
 九十七ノハシ
 九十八ノハシ
 九十九ノハシ
 百ノハシ

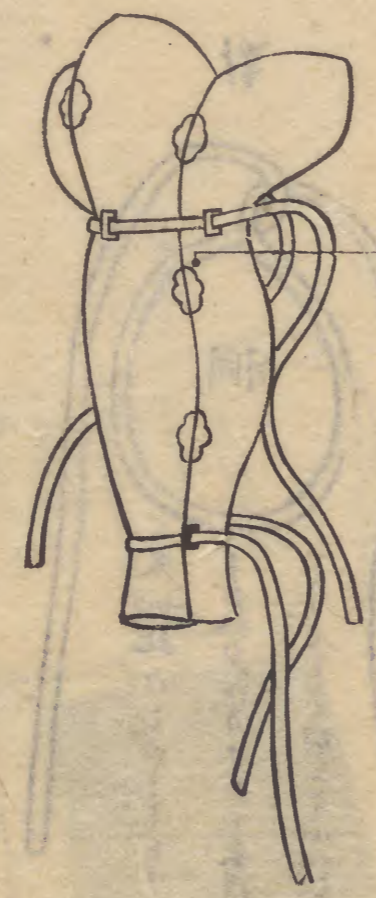
一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 百

緒ラユヒ
タル図



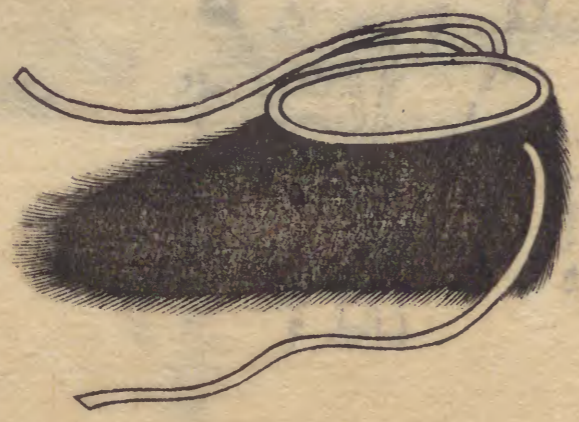
ハ所ニテユラ

臙當 大立奉
右左同シ



モトラリハ所

ツラヌキノ図



裏ノ図

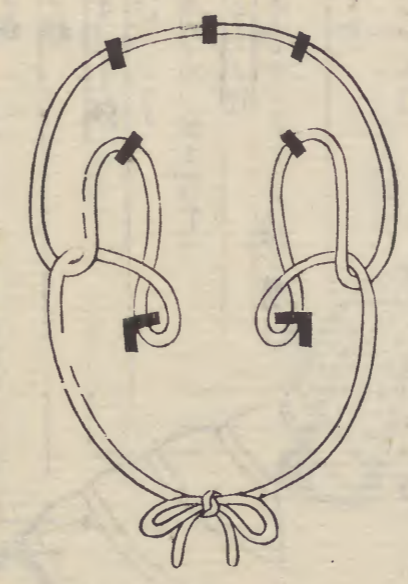
如此カハ付ルハ結ノスリキレヌタメナリ

革ノヒラヲナリ
ハ緒ハ革間ヲ通ルナリ
ワラスキ

家
二
歳



カゴ
鉄鉢
内ニウケバリ
アリ布ヲ用
緒モ付ルナリ



曹之緒箇様如此

近代シビノ緒ノ箇様ノ秘傳トテムツ
カシク頭ヘカクニ付ル事アリサノミ
キビシクカラミ付ルニ及サルコト



ハ
半首
下ニハ半類ニテモ
猿類ニテモアワル
是モ鉄ニテ作ル

珍
堂
指

ムナサシ
左右同シ
アナアリ



孫禮衣

力革

力革

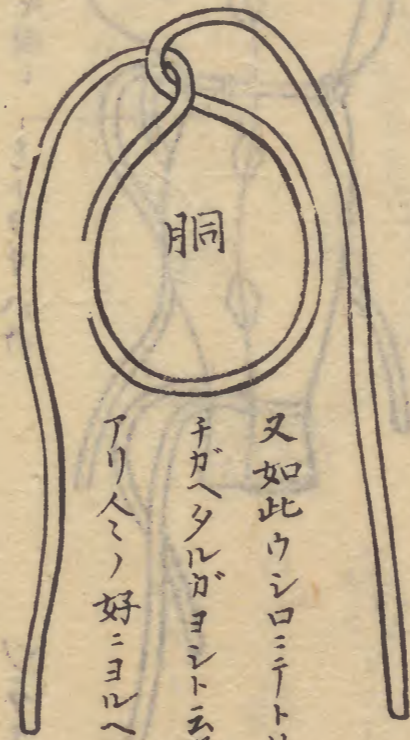
ケシヤウノ板

アサヤウノ板

小札ハ尾サナリ
取尾ノ如シ

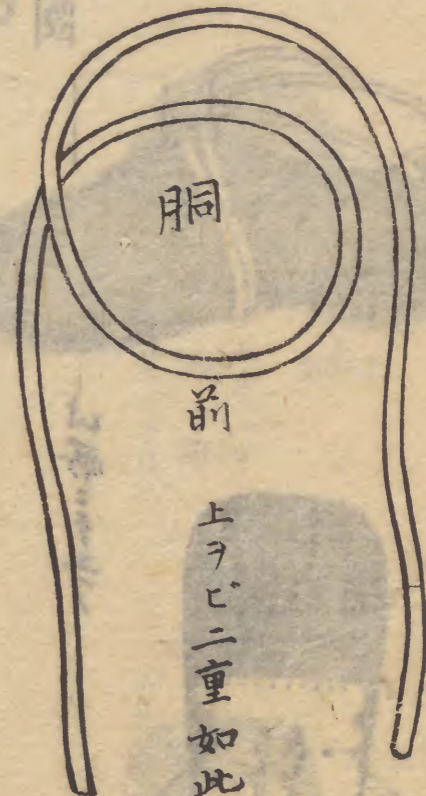
小札毛引也又此所ラモ
尾札ニスルナリ

後



又如此ウシロニテトリ
チガヘタルガヨシト云説
アリ人々ノ好ニヨルヘシ

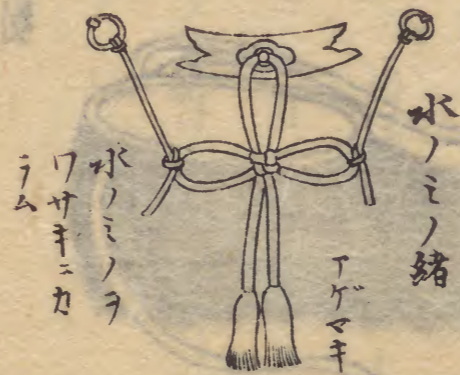
後



胴

前

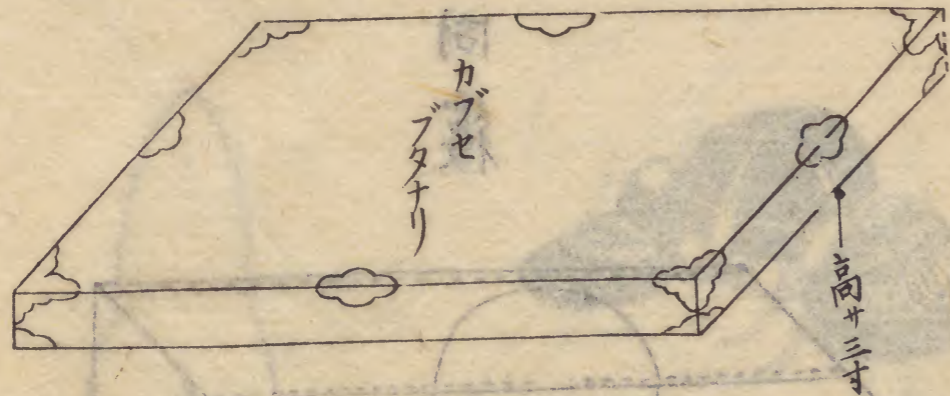
上ラビニ重如此



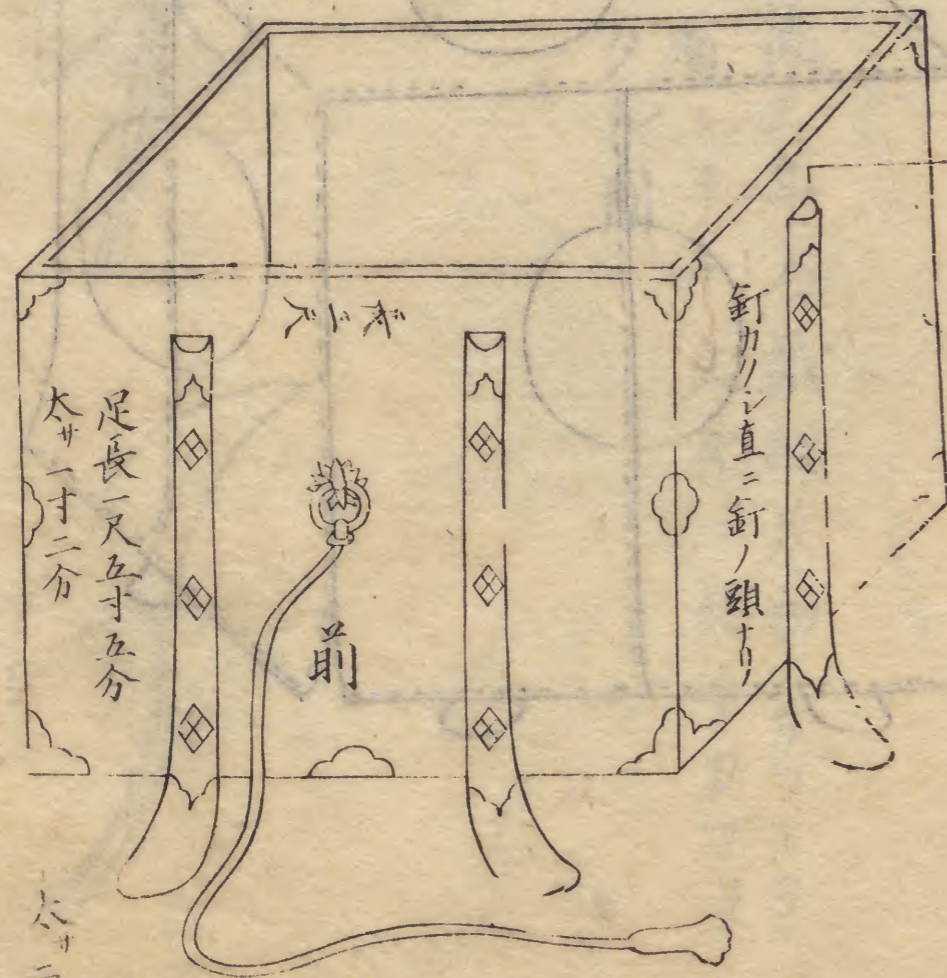
水ノミノ緒

アケマキ

水ノミノヲ
ワサキニカ
ラム



唐櫃



足ノホロミテフタノフチヲウクル
高サ一尺五寸

軍二

四

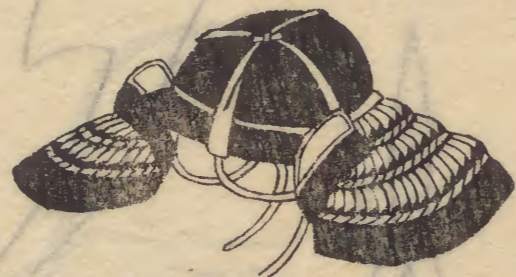
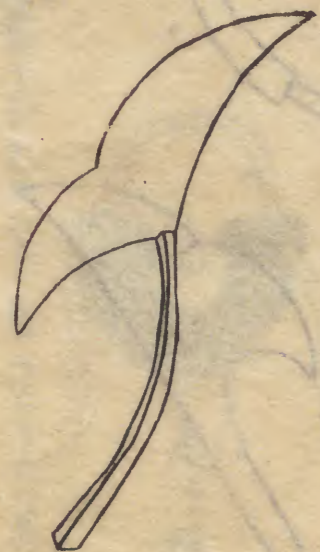
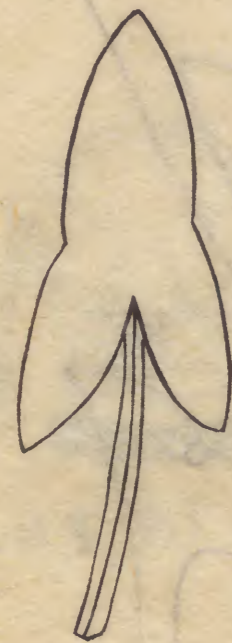
承
堂
版

同
ウラ



ホロミ

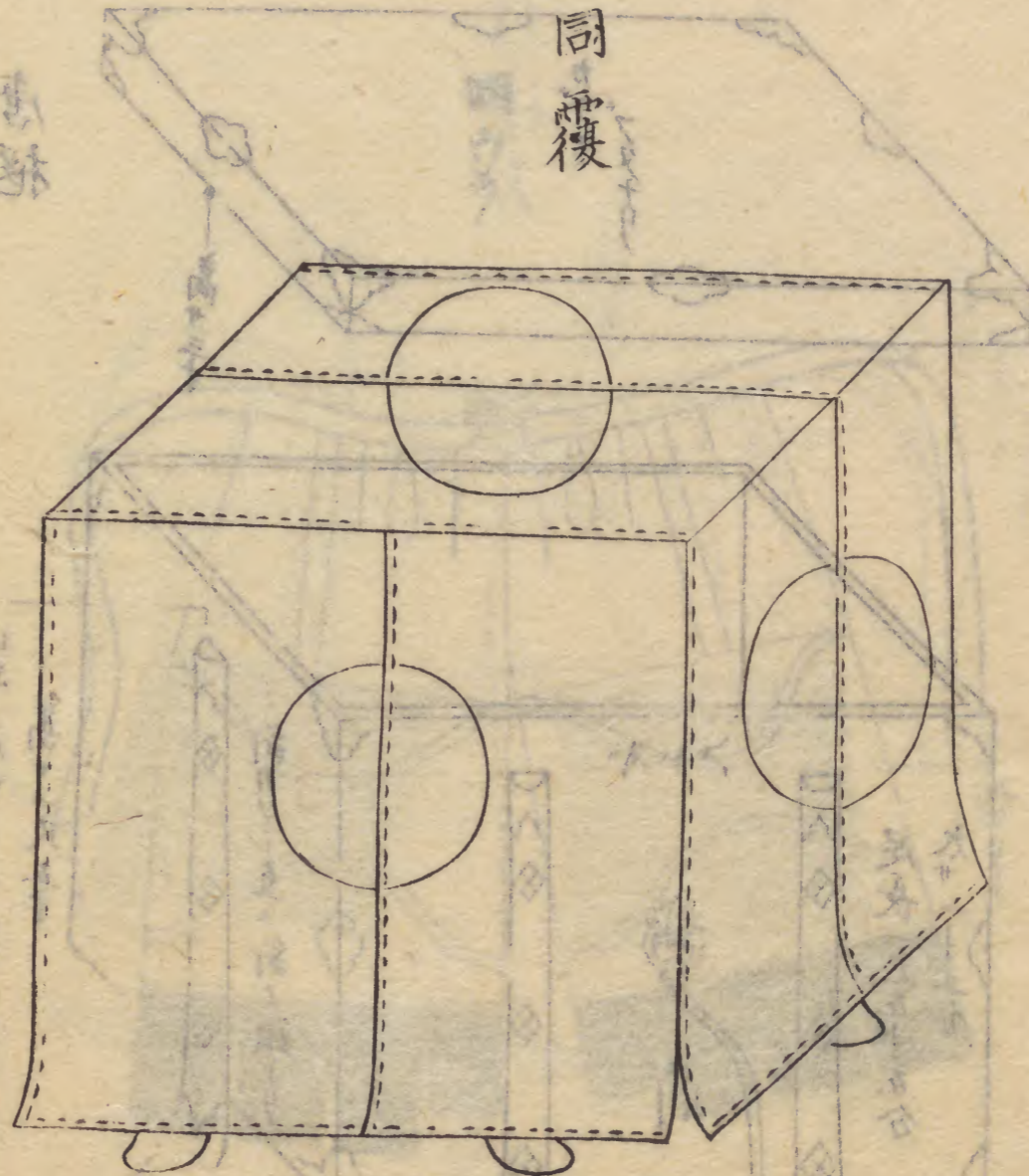
玉
堂
版



補

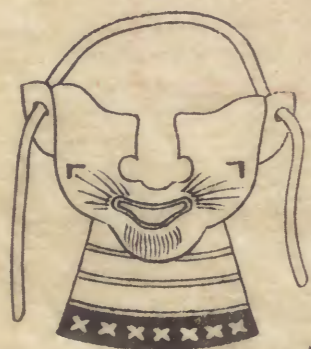
後三年合戦繪巻物ノカブトヲ
布ニテ十文字ニ結テカブリ
タル図

同覆



敷

補



半類

目下類當氏云

緒



大刀ヨケ

ラタヨリノカギ

ハ所深草ナリ

ツラトシノワタ

ヨダリカケ

此類當ラシテ上ニ半首ラカフレハ其顔ノ躰
サルノ面ニ似ナリ



是ラ様類

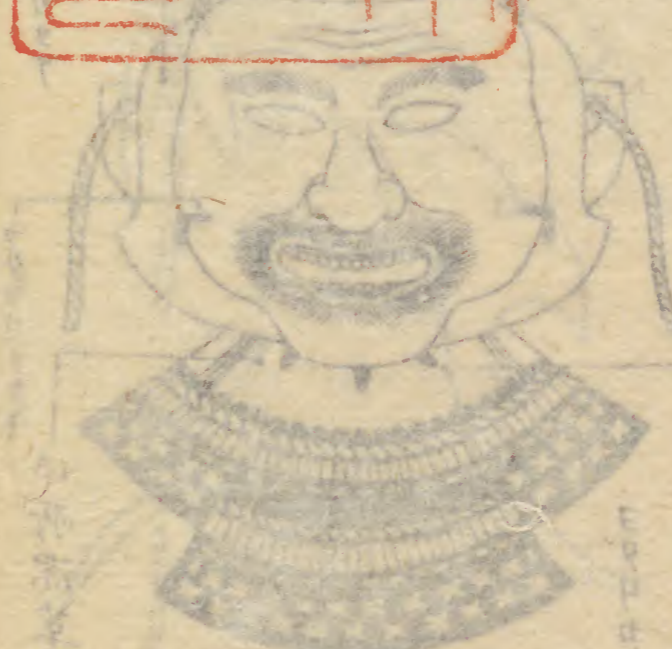
ト云

面類ニアケマキヲ付ルハ
非ナリアケマキヲ付タル
ハ鎧師ノ新作ナリ
ヨダリカケラ面類ニ付ズ
シテ別ニヨシラヘタルモ有



高知縣古村森家藏書

高知縣古村森家藏書



目下懸置引走



高知縣古村森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書

高知縣古村森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書

高知縣古村森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書
森家藏書

